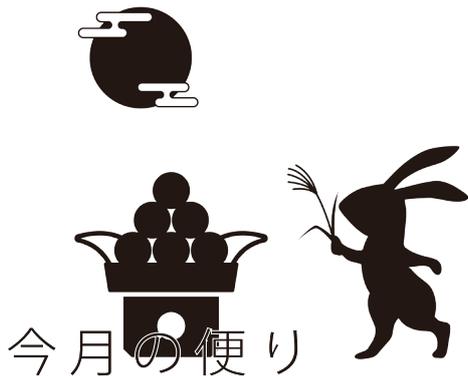


緑の相談コーナーだより

いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

草花の株もと

一年草の中には、アリッサムやオステオスペルマムのように暑い夏に花を休むものがあります。また秋に盛り返して寒くなるまで咲き続けるので、切り戻してから、もし根元が土から出ていたら株下にうっすら培養土などを被せてください。暑い時期に水をホースやジョウロで勢いよくまいて根が土から出てしまうことがあるのですが、そうすると根が暑さで傷つき、そのままにしておくと秋の生育に影響が出てきます。鉢植えも地植えも同じです。草取りのついでに根元に土に腐葉土や堆肥を混ぜたものが培養土を被せて、液肥などをうまく使いながら長く咲かせてみましょう。(きのした)



今月の便り

クロバナハンショウヅル

クロバナハンショウヅルは北海道、サハリン、千島、カムチャッカに分布するツル性の植物です。6～8月に咲く花は黒っぽい紫色で、昔、火災を知らせるときに鳴らした半鐘に似ていることから「黒花半鐘蔓(くろばなはんしょうづる)」の名前がつけられました。ツルの先に約2cmの花を1個下向きにつけその後、対生する葉の付け根から花柄を出し順々に咲かせていきます。花には花弁は無く、4枚の萼片が花のように見え暗褐色の毛が密生します。そのため濃い紫や黒っぽい色に見えます。高さ30～100cmで、蔓長は2mになるものもあります。高地の草原や林縁、高層湿原に生え特に雨竜沼湿原では多く見られます。クレマチスの仲間には北海道では他に高山にエゾミヤマハンショウヅルが、主に道南に咲くセンニンソウとクサボタンが、自生しています。そしてもう1種、オオワクノテ(クレマチス セラティフォリア)という黄色いクレマチスが宗谷地方に自生していたそうですが今は絶滅したそうです。(いとう)



クロバナハンショウヅル
Clematis fusca
キンポウゲ科

頂芽優勢とは？

バラは、一番高いところにある芽(頂芽)に養分が集中して、そこから出た枝(花枝)の先端に花が咲きます。この性質を利用して剪定をすれば、思い通りの樹形で花を鑑賞することができます。剪定時に外芽と内芽を意識する理由は、外芽の上で剪定すれば外芽が頂芽になり、外方向に枝が伸びて、横張り気味の樹形になります。反対に、内芽の上で剪定すれば、その内芽が頂芽になり、株の内側に枝が伸びて、直立気味の樹形となります。バラの生育を優先すれば、外芽の上で剪定するのが理想です。枝と枝の内側に光や風が入りやすくなり、株の内側が蒸れることなく、病害虫も発生しにくくなります。但し横張りに広がる樹形のバラは場所も取るのがデメリットです。このように頂芽優勢を意識した剪定でバラを上手くコントロールすれば、思い通りの樹形に仕立ててより美しく咲かせる事が出来ます。(たかはし)

日本一大きなふきラワンフキ

ラワンフキとは、足寄町の螺湾(らわん)地域に自生するアキタフキの仲間です。草丈は3m、太さは直径10cm以上のフキで、日本一大きなフキで知られています。フキの群生地の中には人が歩いても葉は届かず、大きな葉により日差しが届かず、原生林のようです。昔の人は、このフキの下には「コロポックル」と言う神が住んでいると言っていたようです。アクが少なく、食感が良く、カルシウムやマグネシウム等のミネラルが豊富で食物繊維も多く含まれていて、一般的な煮物や加工食品に使われています。大きく育つ要因は学術的には解明されていませんが、アキタフキの突然変異、盆地である足寄町の気候と、火山灰による土質、雌阿寒岳の麓オンネトーを源流とするラワン川の成分が影響しているなど、複合的要因により足寄町でのみ大きく育っていると考えられているようです。「ラワンフキ」は2001年10月に北海道遺産に選定されているため、苗や種の足寄町以外への持ち出しは禁止とされています。(ながやす)

緑の相談コーナー Q&A

Q 鉢の土に白いカビみたいなものが生えるのはなぜ(・・・)?

A 考えられることはいくつかあります。

1. 水の与えすぎで、いつも土が濡れた状態で過湿になっている。
2. 風通しが悪い場所で、水分が乾きにくい所に置いてある。
3. 有機質が分解されにくい状態になっている。
4. 光が十分に当たらず、水が乾きにくく、常に湿った状態になっている。

プランターや鉢植えの場合は、鉢底石を入れる事で水はけも改善されます。水以外の原因として、プランターなどで培養土を使用したり、腐葉土を購入して鉢や畑に入れた場合に、腐葉土が完熟しておらず、カビが生える事があります。それは、腐葉土を分解している菌で、特にプランターや鉢植えなどで発生する事が多いため、発生したらカビ菌の発生した部分の土を取り除き風通しの良い場所に移動させます。



ひとつき ひとバラ



文： 曾 根 浩 太
(いわみざわ公園バラ園)



第百十七回

フロリバンダローズ

オーキッドロマンス

Orchid Romance

作出国：アメリカ

作出者：William J. Radler

作出年：2004年

ハーディネスゾーン：不明

四季咲き

交雑：Purple Heart × 不明

8月は少々じめっとした天気が続きましたね。皆様のお庭は病気や虫等大丈夫でしょうか。今回はオールドローズのような雰囲気もある可憐なバラ、オーキッドロマンスをご紹介します。オーキッドロマンスは、若干紫がかかったピンクの中輪咲き品種で、カップ咲きからロゼット咲きへと変化していく花形をしています。また、中心に花弁が集まるボタンアイが見られることもあります。葉は深い緑色をしており、やや光沢があります。樹勢は普通でまとまりよく、高さ135cm、幅90cm程度に育つようですが、現在当園では50cmで高さが止まっております。岩見沢の気候だと鉢植えでも十分育てられるくらいのコンパクトな感じになりそうです。耐寒性、耐病性ともに強く、当園が独自で行っている生育調査ではどちらもA判定、凍害なく、夏に病気で葉を落としてもいないという判定をしています。ただ凍害に関して言えば、当園の株は早めに雪に埋もれてしまう程度の小ささなので凍害にあっていないだけで、もしかすると樹高が高くなった際には出てくるのかもしれないなと思っております。オーキッドロマンスは、オールドローズを思わせるクラ

シカルな花形も素敵ですが、なんといっても香りがいいのがアピールポイントです。フレッシュシトラスを思わせる爽やかな香りは評価が高く、北アイルランドのベルファストで開かれているバラの国際コンクールでは2021年に芳香賞を受賞しています。作出者のラドラーさんはノックアウトやケアフリーサンシャイン等も作った方で、その他にも当園で活躍している品種を作っている素晴らしい方です。特にノックアウトは耐病性に非常に優れており、2018年に殿堂入りのバラに選ばれ、2000年にAARSというアメリカの賞、2002年にADRというドイツの賞を受賞しています。オーキッドロマンスも耐病性に優れたバラなのでそういったバラの作出を得意としている方なのかもしれませんね。名前の由来について、オーキッドは洋ラン、赤みのある明るい紫色、淡い薄紫色といった意味があり、ロマンスは恋愛関係、恋愛小説といった意味があります。名前を調べると同名の競走馬が検索で出てきます。名付け親はもしかしてバラ好きなのかな？と考えてしまいますね。当園は秋バラの季節を迎えます。自慢の芳香、是非堪能しにきてください。

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



●9月8日(日) 13:00～15:00 飾って楽しい植物画

料金：200円 定員：40名 講師：木下 京子 さん

持ち物：筆記用具 スケッチブック 水彩画材

●9月16日(月祝) 13:00～15:00 楽しいキノコの見分け方

料金：無料 定員：40名 講師：伊藤 幸秀 さん

持ち物：筆記用具

●9月21日(土) 10:00～12:00 ばらゼミ⑦

料金：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん

持ち物：筆記用具

●9月28日(土) 13:00～15:00 バラ園のバラを使ったアレンジメント

料金：2,000円 定員：40名 講師：大和田 由紀子 さん

持ち物：エプロン・花切りハサミ

●9月29日(日) 13:00～15:00 バラ管理スタッフのローズツアー・秋

料金：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。